

有明海沿岸道路 いよいよ熊本へ！

有明海沿岸道路「三池港IC連絡路」中心杭打ち式

沿岸地域の発展に向けた
大きな一歩

有明海沿岸道路「三池港IC連絡路」中心杭打ち式は9月13日、荒尾競馬場跡地で開催されました。

有明海沿岸道路は、有明海沿岸地域の陸海空の広域交通ネットワークを形成し、未来を創る地域高規格道路です。福岡県区間では、



熊本・福岡両県から多くの関係者が式典に出席

平成20年3月の開通以降、現在までに約7割にあたる19・3kmが開通しています。

三池港IC入口交差点付近は、周辺の地盤が低く、開通後に台風や高潮の影響で道路が冠水し、通行止めが発生しています。

今回整備される連絡路は、台風や高潮など、災害発生時における機能保全に向けて、三池港ICから熊本県内では初となる荒尾競馬場跡地付近までの約2.7km区間の整備となります。

有明海沿岸道路の延伸により 広域の観光ルートを！

今後、有明海沿岸道路が延伸することで、長洲港や有明佐賀空港など、熊本県をはじめ、福岡県、佐賀県、長崎県の有明海沿岸地域が密につながるようになります。

島原半島を含めた広域観光ルートがつながること、九州各地域の交流が深まり、沿岸地域の発展が期待されます。



【有明海沿岸道路「三池港IC連絡路」イメージ図】

早期整備に向けて
熱意新たに！

この式典には、国会議員をはじめ、国土交通省九州整備局や、熊本・福岡両県の自治体関係者など約230人が参加。

熊本県側の首長たちは「多くの皆さんの協力のおかげでこんなにも早く計画が進んできました。これからも熱い気持ちで忘れずに取り組んでいきたい」とあいさつし、有明海沿岸道路の早期整備に向けての熱意を新たにしました。



【杭を打ち込む蒲島熊本県知事】